

教育学部新入生へ

教育学部長 那須俊夫



教育学部玄関

教育学部新入生の皆さん、入学おめでとう。教育学部は学校教育のみならず広く人間と人間の教育について総合的に研究する学部である。皆さんが有意義な大学生を送り、二十一世紀の日本の教育を担うに足る人間に成長されるよう心から願うものである。このために大切と思われることを二つだけ

述べ歓迎の詞としたい。

第一は、「自律性の確立」ということである。入学時点から大学は皆さんを一人の大人として処遇する。他者から制御されずとも、自分の立てた規範に従って行動しその結果に責任を負える存在として皆さんを扱うのである。大学生活で自由を満喫するのも結構であるが、大学が自律性確立のための訓練の場でもあることを忘れないでいただきたい。

第二は、「素直な心で学に接せよ」ということである。これから学ぶことの中には、皆さんが既知と思っていることがあるかも知れない。しかし、それは結論のみであってその前提なり過程は既知のそれとは全く異なる筈である。将来、有用なのは後者であって前者ではない。これから始まる様々な分野の学問との出会いにおいて予断は禁物である。どうか素直な心で接していただきたい。それなくしては学問のよさは判らないであろうし、況んや新しいことは何も見えては来ないでありましょう。厳しい受験競争を乗り切ってきたからといって、これまでの手法が大学でも通用するとは限らないのである。

新入生に アドバイス

教育学部4学年

若宮千華

厳しい「受験戦争」をくぐり抜け、合格通知という切符を手に、広大に入学されたみなさんは、希望と不安で胸を膨らましていることと思う。クラブにアルバイトとたくさんやってみようと思う。クラブにアルバイトとたくさんやってみようと思う。クラブにアルバイトとたくさんやってみようと思う。四年間といえ長そうだが、気を許しているとも何もしないうちに大学生時代は過ぎ去ってしまう。大学生時代はモラトリアム期で、ある意味で社会から許されている気がする。だからこの時期は、あらゆる事にチャレンジし、自分の可能性を引き出す最適の時期といえよう。それを最大限に利用すべきだと思う。あれもこれもと、欲張りになって当然だと思う。その経験の中で、今までは違う「自分」を創りあげてほしい。そして四年間経った時、「よかった」といえるような充実した大学生活を送ってほしいと思う。

最後になったが、広大に入学されたみなさんに「おめでとう」という言葉を贈りたい。